

2019年度 名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校

(現校名：名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校・名古屋ユマニテク調理製菓専門学校)

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、2020年2月13日に「2018年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。
※なお、下記の評価結果については、2018年度の自己評価への評価であるため、当時、歯科衛生学科・製菓製パン本科を所有していた「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」としての内容となります。

2020年3月19日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 平澤 琢二 (名古屋市中村区歯科医師会 会長)
2. 社本 太郎 (株式会社モンシエル 代表取締役社長)
3. 茶谷 敦孝 (株式会社さんぼう 企画営業第2グループリーダー)
4. 松永 奈津希 (歯科衛生学科 同窓会会長)
5. 澤口 朱里 (製菓製パン本科1期生 同窓会員)
6. 中尾 聡 (学校法人 大橋学園 法人本部本部長)
7. 服部 正巳 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校長)
8. 岩田 壮介 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務長)
9. 杉本 佳史 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長)

オブザーバー

- 星野 正純 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長)
木下 光 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長)
鈴木 博明 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長)
加藤 直美 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 学科長)
後藤 一宏 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長)
三宅 孝 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務局)

以上 15名

2. 2019年度 自己評価 (2018年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学校の理念や育成人材像等については本校ホームページで情報発信に努めているところであるが、学生・保護者が閲覧しているかどうかは不明である。あらゆる手段を使って周知する必要がある。保護者に対する育成人材像の周知が不足している。</p> <p>改善策：学生の学習状況等について、「会報」等を発行する。ホームページの新着を見てもらう。保護者との関わりを増やしコミュニケーションをとる。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：人事・給与については根本的な見直しが必要である。業務の効率化、情報システム化をもっと図るべきである。</p> <p>改善策：人事評価制度を活用して変革に着手する。コンサルの導入。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生対応方法の研修をもっと行えると良いのでは。後輩教員の育成。教員、助手の定着率の向上。</p> <p>改善策：ハラスメント等の研修実施へ。教育者としての姿勢を示し、教員としての目標を設定してもらおう。授業研究の取り組み。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業後の情報収集力の向上。卒業後の姿を思い描けるような流れに。本当に学生の希望分野なのかが不明な場合がある。就職活動の開始が遅い学生が気になる。</p> <p>改善策：同窓会、連絡網の整備。学生の質に合わせた指導（表に出さない学生も多いため）。卒業生の活躍を生々の声で在校生に発信する。保護者、高校教員への職業理解向上（イベントでの発信含む）。学生との時間をもっと設ける。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業生への支援体制が足りないと感じる。保護者との連携。学生とじっくり話せる部屋があると良い。</p> <p>改善策：再就職支援の実施（すなわち卒業生との連携強化）。保護者も交えた学生進路の相談。学生との相談室の設定。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：防災に対する組織力の強化。災害に備えた設備の点検、把握。防災マニュアルの確立。海外研修の内容面、コスト面の見直し。</p> <p>改善策：設備点検の強化、防災グッズの備え。掲示板を利用した防災に関する啓発。</p>
(7) 学生の受け入れ募集	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：定員充足ができていない学科には更なる向上を。年々早くなる高校生の動きへの対応。個人個人に合わせた対応。</p> <p>改善策：学内進学促進、外部向け媒体の精査、募集活動の根本見直し、伝達方法の改良等。</p>
(8) 財務	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：財務に関する知識をもっと教職員が深めること。</p> <p>改善策：学内の研修会等への積極的な参加。</p>

(9) 法令等の遵守	評価：適切である。 課題：個人情報の掲示物の保管方法、自己評価に対する改善。 改善策：個人情報の掲示物の保管方法を厳重にする。改善点の明確化。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：ほぼ適切である。 課題：地域貢献の充実、ボランティア活動が不足している。公開講座や教育訓練が足りない。 改善策：教員間で考案をしていく、外部から委託される存在になる（学校の認知を高めること）。

3. 2019年度 学校関係者評価 (2018年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めるとともに、内部での情報発信力を少し強めるだけでも「適切」に転じる余地もあるため、これまで以上に教職員への情報発信を徹底していただきたい。</p> <p>また、同窓会や業界団体との連携を強化することで、学生のモチベーション維持、ひいては卒業生の離職防止まで結びつく可能性も高いため、今後もさらに強化していただきたい。</p>